

## 2017年度「SGH成果発表会」を開催しました。

2018年2月17日(土)に1～5年生が参加して、ふくやま芸術文化ホールリーデンローズにおいて以下のような日程で「2017年度 SGH成果発表会」を行いました。

1. 場所 ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ(広島県福山市松浜町二丁目1番10号)
2. 日程
  - ①開式行事
  - ②「体験グローバル」課題研究発表
  - ③「体験グローバル」・「スーパーグローバル」タイ研修報告
  - ④「提言Ⅰ」課題研究発表
  - ⑤文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」 報告
  - ⑥イオンワンパーセントクラブ「アジア ユースリーダーズ」 報告
  - ⑦広島県「グローバル未来塾 in ひろしま」 報告
  - ⑧「提言Ⅰ」・「スーパーグローバル」オーストラリア研修 報告
  - ⑨ご講評
  - ⑩閉式行事

当日は、保護者や教育関係者など多数の出席を頂き、盛大に開催することができました。各発表の具体については以下のようになります。

### 「体験グローバル」課題研究発表

「体験グローバル」では、5名もしくは6名で編成した班体制で、昨年7月から課題研究を進めてきました。1月に「クラス発表会」を実施し、その発表会を受けて選出された5つの班が代表発表を行いました。発表を行った班の研究題目は以下の5つでした。

- ①「コンビニでリサイクルは可能か」
- ②「味噌の可能性」
- ③「福山市の子育て政策」
- ④「“KAROSHI” in Japan ～日本人は働きすぎ！？～」
- ⑤「人工知能・ロボットと現代社会」



### 「体験グローバル」タイ研修報告

今年1月に行われたタイ研修に参加した4年生の10名が、研修の活動報告と、代表者による個人研究の経過報告を行いました。活動報告では、チュラロンコン大学及び附属学校と国際貿易振興機構(JETRO)バンコク事務所、ホーコスタイランド訪問について具体的な報告がされました。また、代表者の研究報告では、「日本の防災技術を世界へーJICAのこれからを考えるー」と「加速する少子高齢化と農業への影響ータイと日本の農業の未来ー」を研究題目としている2名の研究の現状が報告されました。



### 「提言Ⅰ」課題研究発表

5年生の選択科目である「提言Ⅰ」は、昨年4月より体験グローバルで学習した課題研究の方法を活かして個人で研究課題を進めてきました。研究は、研究分野やテーマが似た数名でグループを作り、それぞれのグループに担当教員がつくかたちで研究の進捗状況を定期的に報告し合い、生徒や教員から意見やアドバイスをもらいながら大学のゼミのようなかたちで研究を進めてきました。発表会ではその中から3つの研究が「提言Ⅰ」の代表として発表を行いました。研究題目は以下の3つです。

- ①「一瞬のミスを防ぐには ～計算ミス編～」
- ②「フェアトレードの現状と今後」
- ③「コンパクトシティ化～4つの視点から見た農業の未来～」(4人の個人研究を融合したグループ発表)



### 文部科学省「トビタテ！留学 JAPAN」報告

文部科学省は、「意欲と能力ある全ての日本の若者が、海外留学に自ら一歩を踏み出す気運を醸成する」ことを目的として、2013年10月から留学促進キャンペーン「トビタテ！留学 JAPAN」を開始しました。今年度このプログラムに採用された5年生1名が活動の報告をすべて英語で行ってくれました。報告の中では言語への対応に苦勞する中で、必死に努力したことで得られたことを報告するとともに、

「プログラム全体を通して、自分の将来の夢が明確になったと同時に、夢へのスタートになった」という思いを語ってくれました。

### イオン1%クラブ「アジアユースリーダーズ」報告

「アジアユースリーダーズ」は、アジア各国の高校生が一堂に会し、開催国の社会問題をテーマに、視察や専門家によるレクチャー、生徒どうしのディスカッションを通じ、解決に向けた論理展開を磨くことを目的に行われています。今年度6年生1名、5年生2名が当校から初めて参加し、5年生1名が代表してその報告を行いました。報告の中では「活動での悔しい思いが、その後の学校生活で何事にも妥協しない原動力になっている」こと、だからこそ後輩たちにも「挑戦することの大切さを伝えたい」と語ってくれました。この報告も、「トビタテ！留学 JAPAN」と同じく、すべて英語で報告が行われ、それぞれの質疑応答では、すべて英語で行われる場面もありました。



### 広島県「グローバル未来塾 in ひろしま」報告

「グローバル未来塾 in ひろしま」は、「国際平和拠点ひろしま構想」の取組の一つとして、高校生世代に、将来、国際平和を希求し世界的に活躍できる人材を目指してくれるよう、将来への第一歩を踏み出すために、英語力を養い、核軍縮や紛争解決などの国際的課題を学ぶ広島県が行っているプログラムです。昨年度の「SGH 成果発表会」において、このプログラムに参加した先輩(現6年生)の報告に刺激を受けた5年生1名が参加し、その報告を行いました。報告では、「experience(経験)」をキーワードに、一歩を踏み出すことの大切さを語ってくれました。



### 「提言 I」・「スーパーグローバル」オーストラリア研修報告

昨年8月に行ったオーストラリア研修に参加した5年生の10名が、研修の活動報告と、研修を通してまとめたグループ研究の発表を行いました。

活動報告では、スクリーンに研修中に撮影した動画を投影しながら活動を報告してくれました。また、研修を通じた研究は、グループで行われている以下の2つの研究題目についての発表がありました。

- ①「Global Society and Japan :Questionnaire in Japan and Australia - “JAPAN” to “NIPPON” -」(すべて英語による発表)
- ②「多文化共生社会に生きるということ～オーストラリアでの現地調査を通して～」

質疑の場面では、中学生から英語による質問に挑戦しようとする姿も見られ、高校生が発表する姿に刺激を受けている後輩たちがいることを実感することができました。

この2つの研究は、当校のSGHの課題研究を代表して3月24日に関西学院大学で行われる「SGH 甲子園 2018」に参加する予定です(昨年11月25日に横浜で開催された「SGH 高校生フォーラム」にも①の研究がポスター発表を行っています)。



### ご講評

運営指導委員である、教職員支援機構次世代型教育推進センターの大杉昭英先生、広島大学大学院国際協力研究科の藤原章正先生からご講評をいただきました。大杉先生からは、プレゼンテーション能力の高さを評価していただくとともに、研究を発表するにあたっては、多くの人にとって研究に価値があることを、説得力をもって伝えられるかが重要であること、そして、それができるようになるためには日ごろから常識を疑ったり、問題に対して「自分はこう思う」という意見をもったりすることの大切さを生徒に伝えてくださいました。藤原先生からは、背景が異なる人間同士でも、「相手としっかりコミュニケーションをとれるか…」という不安は一緒だし、「相手に喜んでもらえるようなことをしたい」という思いは一緒であることなどを大学院の留学生と関わる経験の中から話してくださいました。また、「失敗を恐れて行動しなければ、失敗も成功もしない」と、一歩を踏み出すことの大切さを生徒に伝えてくださいました。

発表会後の運営指導委員会では、ご講評いただいた2名の先生に、前校長である築道明先生(広島大学教授)を加えた3名の先生方から、4年目となる来年度のSGHの取り組みに対して、示唆に富むお言葉をたくさんいただくことができました。

